

事務局便り

第115号（令和7年6月）

【英霊に敬意を！日本に誇りを！】

近畿偕行会

巻頭言

本年は大東亜戦争終結80年、8月に向けて何時よりもよりも更に拍車を掛けて平和に名を借りる悪質な反戦報道がNHKを筆頭に準備されているとか？ともかくも戦没英霊・雄々しく戦った同胞の御霊に対し静かに感謝の誠を捧げたいものです。今期は、年度の重要行事である「昭和殉難者法務死英霊追悼年次法要」並びに「総会」も滞りなく実施する事が出来ました。これも偏に関係諸氏のご協力の賜物であると感謝申し上げます。また今期は不順な天候で、やっと春がと思いきや、夏日が来、寒の戻りがあり、この分では鬱陶しい梅雨と猛暑が予想される夏の成り行きが心配になります。小生初め老齢の方は特に健康に留意して乗り切り、生き抜きましょう！！（加賀本）

案内事項

令和7年度第2回理事会・特攻理事会

第2回理事会は8月2日（土）15：00～17：00 大阪護国神社において開催を予定します。当初特攻理事会を、次いで近畿偕行会の第2回理事会の順で行います。理事の方には、別途ご案内いたします。出欠のご連絡は、7月25日（金）までにお願いいたします。担当 熊谷

令和7年度会費納入のお願い

会費は、近畿偕行会を維持し、活動を円滑かつ効果的に運営するための軍資金です。
本年度会費未納の方は、当会の財政的窮乏をご明察の上、114号に同封しておりました「近畿偕行会（00900-6-29358）用「払込取扱票」にて、メ

ール連絡会員の方は、近畿偕行会（00900-6-29358）宛に、振込みの程、宜しくお願い致します。
担当 加賀本

会員増勢のお願い

ご遺族・戦友が亡くなられて行く中、戦没英霊慰霊の灯を消してはなりません。国のため命を捧げた英霊に対する感謝を忘れ、祖国への誇りを持って国民、その国は亡びると言います。

令和6年度（本年度）には、会員数は100名を割りこむ見込みです。

「英霊に敬意を！日本に誇りを！」をモットーとする崇高な使命を有する近畿偕行会を潰してはなりません。何としても盛り上げねばなりません。解決策は、一に、会員の増勢を図る他ありません。◎帝国陸軍関係会員の皆様には、ご子弟、お孫さんを家族会員に！！

◎自衛隊OB会員の皆様には、同期生・後輩を正会員に！！子弟を家族会員に！！

◎本会の趣旨に共鳴する、身近にいる、志ある草莽の士を発掘し、賛助会員に！！
ご協力を衷心よりお願い致します。情報を頂ければ、事務局で対応いたします。

担当 加賀本

報告事項

高野山昭和殉難者法務死英霊追悼年次法要

令和7年4月29日（火・昭和の佳節）11時30分から高野山奥の院「昭和殉難者法務死慰霊碑」前に於いて高野山真言宗管長・総本山金剛峰寺座主大僧正長谷部直道義猷下ご導師のもと、各寺院御導師の御出仕を頂き、年次法要を行いました。新緑鮮やかで、桜も咲き残り、寒気身に心地良き、昭和の佳節の良き日、ご遺族・戦友、第37普通科連隊長1等陸佐伊藤亮基殿初め自衛隊関係者、国防会会員、志し熱き一般参加者の方々等多くのご参列を得て、盛大かつ厳粛に執り行うことが出来ました。



英霊の鎮まれる昭和殉難者法務死慰霊碑



焼 香 風 景

特に「金剛舞菩薩和讃」の舞奉納はご英霊御霊の荒ぶるお心を少しはお慰めする事が出来たかと思料いたしました



舞奉納「金剛舞菩薩和讃」

冷気、身の引き締まる晴天にも恵まれ無事終了しました。

本会からは会長・事務局長・理事以下10名が参加しました。

担当 加賀本・熊谷

令和7年度総会開催

5月24日（土）10時から、本年も、「KKR HOTEL OSAKA」最上階14Fスカイバンケット「オリオン」で、太閤殿下の夢の大阪城

天守閣、帝国陸軍の確かな足跡の大阪第4師団司令部（現在は商業パビリオン）を見下ろしながら32名の参加を得て盛大に実施する事が出来ました。諸般の事情により、本年度は陸上自衛隊中部方面音楽隊の演奏が中止となり、一抹の寂しさが感じられました。

ご来賓は以下の13名の方々でした。

中部方面総監代理行政副長陸将補	梶本 賦 殿
第3師団長代理副師団長 陸将補	末田 毅 殿
自衛隊阪神病院長（講師）陸将補	内藤智子 殿
中部方面総監部総務部長 1等陸佐	黒木勇人 殿
兵庫地方協力本部長 1等陸佐	福森秀樹 殿
中部方面総監部総務部 3等陸佐	川岸利成 殿
元大阪府議会議員	西村日加留殿
日本人の心を伝える会会長	工藤 皇 殿
日本人の心を伝える会	池田 実 殿
日本会議大阪支部支部長	實来扶佐子殿
関西防衛を支える会会長	新井信彦 殿
国防を考える会会長防大23期	高橋忠義 殿
兵庫県隊友会顧問	石飛宗一 殿

行事次第及び概要は以下の通りです。

1. 総会

会長挨拶、事業報告・事業計画及び収支報告・監査報告・来年度予算を報告し、承認を得ました。

2. 記念講演

講師には、自衛隊阪神病院長兼て川西駐屯地司令陸将補内藤智子殿をお招きしました。

演題は、「衛生科的視点から考える安全保障」でした。

軍医・整形外科医としての実績と世界各国の軍

医との交流、軍病院研修、紛争現地での各国と共同する救護活動等を通じての豊富な経験から内容の濃い、興味ある講演でした。

その概要を私なりの理解で記します。

戦いと共に医学の発達があり、銃器の出現による戦いの変容と共に被害が拡大し、それに伴って救護のための医療もより高度化して来たと云う史実は、人間の愚かさと人知の素晴らしさを感じさせられました。

また、近くは武漢ウィルス・コロナで印象深い「感染症」に関し、有史以来存在し、国を守った事もあれば、滅ぼした事もあった等々興味深い話でした。

国家の安全保障と共に近來は「人間の安全保障」が提唱され、傷病者・患者の生命を救うと共に身体の安全・心の安全が強調され出したとの話は心強い事でした。

平和な世界で、医療も更に発展する事を祈る事頻りの心境です。

講師の女性らしい優しい解り易い語り口は好評を博しました。

終了後直接に、その後、メールにて、電話にて同じ感想を頂いたことがその証左です。

貴重なお話、本当にありがとうございました。



内藤智子院長殿の講演状況

4. 懇親会

眺めの良い最上階 14F (スカイバンケット「オリ

オン」) で開催、雨に煙る風情ある大阪城を眼下にする雄大な景色も肴に、KKR 自慢のコース料理と共に飲み放題の美酒も楽しみ、歓談出来ました。懇親会の時間を長く出来、例年以上に懇親の実を挙げる事が出来たものと思料します。来賓紹介の折には、突然に最長老の陸士 59 期「余田和雄先輩」からお元気な力強い声で、心からの激励を頂きました。参加者一同、先輩を見習って元気で長生きしようと思いました。



余田和雄先輩からの激励 (岸岡サトミ女史提供)



懇親会の一景 (岸岡サトミ女史提供)

最後も、2 世正会員小林一朗殿 (陸士 58 期利外殿ご子息) による「万歳三唱」で締め、来年の再会を約して、無事終了しました。

担当 加賀本

会外行事参加報告・紹介案内

参加報告

陸上自衛隊伊丹駐屯地創立記念行事

4月5日（土）伊丹駐屯地創立74周年記念行事が実施されました。

桜はまさに満開、久々に駐屯地の一般開放も実施され、売店等で子供たちの嬌声も聞かれ何か嬉しい気持ちになりました。



当会から会長以下近隣在住者5名が参加しました。

担当 加賀本

同期の桜を歌う会

今年も4月5日（土）13：00から満開の桜が咲き誇る大阪護国神社社殿横で「同期の桜を歌う会」が開催されました。

しかし、主催者の一人、「三浦時生氏」が急逝され鎮魂も含め寂しい面もありました。

が、晴天にも恵まれ、満開の桜も三浦氏の功労を称えるかの如く咲き誇り、その下で多くの声自慢、軍歌・懐メロファンが参加し、英霊に届けとばかりに、音程も何のその蛮声を張り上げて合唱していました。

「今日、日本がこれまで復興、発展を遂げたのも、かつてこの歌と共に戦場に赴き、祖国のために青春をささげ、また多くの戦友があったおかげです。其の思いを込めて私たちが桜花の下に相集い、英霊と再会して、その御霊に心から感謝し、「同期の桜」を歌いましょう」との三浦氏の遺志を継いで、靖国神社の会場にも負けない様に、今後も大いに盛り上げて行きましょう。

今年は当会から会長・事務局長・太田の3名が参加しました。



英霊と共に大合唱

折から多くの花見客もあり、飛び入り参加し、また興味深げに聞き入っていました。特に若者、夫婦、子供連れ等も意外に多く、心強く感じました。

担当 加賀本

陸上自衛隊第3師団創立64周年記念行事

陸上自衛隊第3師団創立64周年・千僧駐屯地創設74周年記念行事が、5月18日（日）千僧駐屯地に於いて実施されました。

予報外れのまずまずの天候に恵まれ、師団改編後の新編制・新装備による式典（観閲行進）・訓練展示が実施されました。



わが原隊の第37普通科連隊の観閲行進

その後の懇親会は、旧知の友等との再会を喜び合う楽しい宴となりました。

駐屯地は一般開放され、出店、イベントは雨にもかかわらず賑わい、入場者も1万人を超えたとの事でした。 本会から会長・事務局長・理事以下7名が参加しました。

担当 加賀本

紹介案内

今期は特にありません。

担当 加賀本

和歌山偕行会便り

「国内外で関税がどうの、消費税がこうのと大騒ぎですが？」

関税や消費税は誰が負担し支払うのでしょうか？

関税は輸出国が負担するものではありません。

輸入国のバイヤーが負担します。日本が米国へ自動車を輸出すると米国のバイヤーが関税を米国国庫納めます。米国民は関税を上乗せした価格で日本車を購入することになり割高な日本車を購入せざるを得ず、間接的に関税負担を被ります。

消費税は消費者が負担し支払うものではありません。売る側が負担するので間接税であり直接税ではないのです。

トランプは、「日本の消費税は、日本の輸出企業への補助金である」と主張します。国産車を日本国内で売る時には、消費税は自動車メーカーが負担して消費税を国庫に納めます。が、米国に輸出する時は、その仕組みの対象にはならず、消費税が還付されます。それ故、輸出で儲けている企業・財界は、消費税を上げることはウェルカムなのです。

なので、トランプの言い分も強ち的外れではありません。財界が国民の懐具合を悪くしているとも云えます。メーカーが日本国民の購買力を削いでどうするの？ 豊田章男社長以下、輸出で儲けている業界人は、米国に出向いて米国民に関税を上げることは双方国民にとって決して得(とく)にならないことを説(とく)くべきです。

政教分離だとか、政経分離だとか阿呆なことを言っている場合ではありません。

(前和歌山偕行会会長 奥野耕三 記5月2日)

「昭和殉難者法務死英霊追悼 年次法要に参列」

法務死という言葉をご存知でしょうか。 GHQ が報復的に行った極東軍事裁判で、謂れ無き汚名を着せられて亡くなられた方々の無念極まりない死を指します。 法務死者は、全国各地で1184名いらっしゃいます。

その法要が、「昭和殉難者法務死英霊追悼 年次法要」として毎年4月29日、高野山奥の院に建つ追悼碑前で行われています。

犠牲者の関係者が始めた法要を、その家族が受け継ぎ、そのお嬢様が引き継ぎ、更にそのお嬢様が引き継いで三代にわたって犠牲者を弔い続けておられます。国ではなく、和歌山県にある民間の一企業が主体で行っているのです。

昨年、近畿偕行会の事務局長からご案内をいただき、初めて参加致しました。

その昭和の日の法要では、二代目のお嬢様が結びの言葉として「処刑された方々は、さぞ無念だったことと思いますが、無念さのなかにも祖国の繁栄を想い、後を託した人達がきっと復興を遂げてくれると願っていたと思います。恨むのではなく、犠牲になられた方の願いを継承し、現在の平和がこの方々の犠牲の上に成り立っているということをしつかりと受け止め、平和を願っていきたい」と仰いました。

私は大変感銘を受け、祭主である「昭和殉難者法務死追悼碑を守る会」会長のお話を伺いました。

その会長こそが、築野食品工業(つのしょくひんこうぎょう)の社長、築野富美さんだったのです。丁度その頃、たまたま自衛隊の後輩が和歌山地方協力本部を通じ、退職後の再就職先を探していま

した。彼は大変優秀なので、是非とも優良な会社に就職させたいと考えていましたが、縁あって採用して戴いたのが、奇遇にも築野食品工業だったのです。

築野社長は、自衛隊の活動に理解のある方で、今後も元自衛官を受け入れたいと仰っています。

有り難いことです。

今年の法要にも参加させて戴きましたが、築野社長のお嬢様が結びの言葉を述べられ、この法要を引き継いでいきたいと仰いました。

築野食品工業は、現社長のお父様が「食糧の安定供給が図れる事業で社会に貢献したい」との思いで創業なさったそうです。創業者である築野政次初代社長は、前橋陸軍予備士官学校8期生、満州島北部の所属部隊にいらしたそうです。

昭和20年、フィリピン中部のジャングルの中で終戦を迎え、昭和21年、山下奉文大将が戦犯と看做され処刑されたことを知り、同じ年の7月に帰国して以来、山下大将を弔い続けたそうです。

南方戦線要員として凄まじい戦場を目の当たりにし、尊敬する大将らが戦犯と言われて処刑される想像を絶する経験をなさいました。

今や英霊となった大将らの祖国繁栄への願いを、同じ時代、同じ場所で感じていたのだと思います。だからこそ、こうして次世代に、しっかりと引き継いでいращやるのでしょうか。

全国の自衛隊の方々にも是非、このような企業があることを知って戴きたいのです。

築野食品の米油は有名で、全国のスーパーで販売されています。廃棄されてしまう米糠から米原油を抽出・精製し、美味しくて体に良い米油として商品化したものです。その技術も製法も、環境保全と高品質を両立した独自のもので、日本人らしい発想です。

以上の様に、企業理念に通底するのは、「国家・国民を大切にし、生命・健康の維持増進に貢献したい」との崇高な精神性にあります。

米糠の買い付けは、国内のみならず、社長自ら東南アジアやアフリカまで赴いているそうです。

日本だけでなく、国境を越えた世界の平和、繁栄を目指した経営は、初代から受け継がれてきたのだと思います。

(和歌山県隊友会 会長 木下晴夫)

編集後記

本年度の総会は、先輩方のお元気な姿を拝見でき、特に100歳を超える大先輩、陸士59期「余田和雄殿」の力強い激励に、弱気になっていた執行部の我々は「頑張らねば」と気を新たにしました。仙幼49期田川康吾殿もお元気な姿を見せて頂きましたが、帝国陸軍の先輩の参加が2名だけとなったのは気がかりな事です。

参加者は若干少なかったのですが、語らいも盛り上がり、懇親の実を上げられ、盛会裡に終わったのではないかとホッとしています。

「和歌山偕行会便り」の項に和歌山県隊友会会長の「昭和殉難者法務死英霊追悼 年次法要参加所見」を掲載させて頂きました。

そろそろ梅雨の時候となりますが、会員各位におかれましては、健康にご留意をされて、ご健勝でお過ごし下さい。

(加賀本)

近 畿 偕 行 会

会 長 加賀本 昭雄

編集責任者 熊谷 勉

〒651-1513 神戸市鹿の子台北町3-1-4-201

Tel & Fax:078-952-3063

編集委員 加賀本 昭雄

〒664-0012 伊丹市緑ヶ丘2-97

Tel:072-785-8954

